

8月に入ってまもなく出穂を確認した圃場も8月10日には全圃場でほとんどの穂が出揃い、順調な生育をつけています。この時期は特に圃場の水を切らさないように適正な水管理が必要な時期でもあることから飽水と灌水管理を行っています。

また、この時期に注意しなければならないの見られるようになった、カメムシ（アカスジカミカメ等）被害です。

これらのカメムシは、圃場に隣接する畔や水時期から圃場に侵入し、稲穂に取り付き、結実分を吸い取られた跡が黒く朶にでき、収穫後そ播いたような状態の斑点米として扱われること

対策として一番効果のあるのは、カメムシのを伸ばさないようにコマ目に刈り取ることです。4回隣接する畔等の除草を行ってきました。

### 早朝開花の 稲の花



は、近年新潟県内の圃場でも発生がスミカメ、アカヒゲホソミドリカス

路斜面の雑草に生息し、圃場の出穂中の朶から養分を吸い取ります。養の黒い点が残るため、お米にゴマを

となってしまう。生息地となる、畔や水路斜面の雑草

当農園では田植え後毎月、これまで

### 定点生育調査(茎長85cm)



### 新型除草機による作業



### 当農園の除草機そろい踏み



今シーズンは隣接する大規模経営農家の管理状況について書いてきましたが、このカメムシ対策でも問題をおこしています。これらの圃場では人手不足等から畔等の除草が間に合わず、田植え後やっと1回目の除草が終わったか、あるいは、草丈が1m以上になるのにまだ1回も除草の終わっていない箇所があります。

このような、管理不十分の箇所が隣接地にあると、カメムシには羽根があるため、いくら自分の圃場をきれいに、刈払い管理をしても効果が危うくなってしまいます。

左写真の上部は当農園の圃場で、すでに出穂が終わり黄金色に色づくのを待っているじょうたいですが、手前の（大規模経営農家）圃場では、稲丈も短く、畔は（圃場内も含め）雑草が稲丈と同じく繁茂しています。



### 7月号と同じ箇所から撮影 H27.8.20撮影

### 今年の草薺アート製作



### アート人形の作成 (No2)



### アート人形の作成 (No1)



今年の草薺アートは「おいしいミネラル米」と草薺作業中の人形アート2体としました。まだ、草丈が十分でないため、9月号で全体を紹介します。

発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755

妙高西条農園長 池田博子

☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908

URL : <http://www.kanta.jp> E-mail : [ikedata@kanta.jp](mailto:ikedata@kanta.jp)